

琉球大学学術リポジトリ

ユーカリの話

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 諸見里, 秀宰, Moromizato, Shusai メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20018

ユーカリの話

一、ユーカリとは

ユーカリとは、フトモモ科のユーカリ属に属する樹木を総称してかく呼んでおります。ユーカリ属に属する樹木の種類はきわめて多く、現在世界で六百種以上の種類が知られております。

ユーカリは、原産地濠州では北は熱帯から南は温帯まで、濠州全体にわたつて広く分布している樹種です。現在では、世界の多くの国々で栽培され優秀な造林成績を示しています。

沖繩は年々日本から多量の木材を輸入していますが、日本もまた外国から毎年一千万石以上の木材を輸入し、それでもなお不足している現状であります。このように各国共木材飢饉解決のために生長の早いユーカリに注目するのは当然のことといえます。ユーカリの価値が高く評価されて以来各国ともその研究を始め、現在ではF・A・Oの林業部でも取上げられており、世界的な規模のもとにユーカリの研究がなされております。

ユーカリの第一の特長は、きわめて生長が早いことである。植栽後一か年で一・五―二米に生長し、木麻黄以上の生長をすることから推しても容易に想像することができる。また、単に生長が早いだけでなく樹幹が通直で材質がすぐれているために各種の用途を有している。世界で最も大きな樹木としてよく知られているのはアメリカのセコイアであるが、ユーカリはセコイアに匹敵する程の巨大な樹木であります。森林利用学で有名な上

村勝爾氏はユーカリを東の横綱、セコイアを西の

横綱だとたとえている程で世界における巨樹の双壁をなしております。次に驚異的な適応力と広汎な用途をもつていことである。濠州原産のユーカリが北アフリカの砂漠地帯で栽培されているものもあれば、英国の湿润寒冷な地方で栽培されているものもある。すなわち、南米、北米、地中海岸諸国、印度、中国、その他の近東諸国で広く栽培されていることからその適応性がいかに大きいかを知ることができる。また、ユーカリ程多様な産業的用途を有する樹木も珍らしい。葉は多量の精油を含み、医薬、工業用に用いられ、樹皮はタンニン酸を豊富に含有してなめしかわ用に用いられる。木材は建築、造船、橋梁、枕木、電柱、車輛、家具、合板、パルプとしてきわめて重要視されている。殊にパルプ材としての用途は将来大いに発展するものと思われるが、現在ユーカリを原料としてパルプ製造をおこなっている国は、濠州ブラジル、イタリー、フランス、スペインなどである。日本でおこなわれたパルプ試験の結果から未さらしパルプの歩留についてユーカリ、モクマオウその他の樹種についてみると次の通りである

ユーカリ……………四七・九%
モクマオウ……………三八・四%
アカシア……………二五・二%
ポプラ……………三五・〇%

このようにモクマオウよりもはるかにすぐれており、現在主にパルプ材として用いられているマ

ツ類よりも良好な成績を示している。また、薪炭材としては得度で火力が強いためきわめてすぐれている。その他、花は蜜源としてすぐれているといわれている。

このようにきわめてすぐれた樹木なので、戦後林業とは縁のうすい水産業界の日本二郎氏がグリーン・エイジ誌にユーカリの造林を提唱されている、日本林業の救世主あらわるとばかりに林業界はきそつてユーカリを研究しユーカリブームを起したわけでありませう。沖繩でも戦後台湾から大葉ユーカリ、レモンユーカリが導入されております。現在、沖繩におけるユーカリは試験研究の段階にすぎないが、万能な用途を有し、驚異的な生長をするユーカリをとりいれることによつて、沖繩の林業をもつともつと発展させるのに役立つものと思われる。より多くの篤志家によつて、試験の意味をかねて広く造林をされることを切に望むものである。

二、ユーカリの導入とその結果

日本にいまから八十年前(明治十年頃)に初めてユーカリノキ(グロブルス種)がいられたようでありませう。しかし、その当時は木材の需要が低いため、林業用としては用いられず主に庭園木として植栽されていたようであります。今から四〇年前、上村勝爾氏はユーカリの旺盛な生長力を利用しての研究を講じなければいけないという事を力説しておられます。それが第一回目のユーカリブームといえます。しかし、その後ユーカリについては殆んど省みられておりませぬ。

戦後はすでに述べたように一九五三年頃日本二郎氏がユーカリ造林を提唱されてから、日本の林業界はこぞつてユーカリを研究しユーカリブームをひきおこしたわけでありませう。沖繩でも戦後台

湾からユーカリが入れられましたし、最近は大くブラジルから緑化用にと同胞の温い援助がなされている。

日本であれ程騒がれたユーカリも、殆んどユーカリ造林には失敗しユーカリ熱もだんだん下火になつてしまいました。現在でも尚一部のの人々によつて研究が続けられています。日本でユーカリ造林に失敗したのは、在来樹種と同様な方法で取扱つた結果だと思われ。結局はユーカリに対する認識不足と技術的にきわめて無知であつたといふ事を第一にあげることができると私は考へる。新しい酒は新しい革袋に入れなければならぬ。同様に新しい樹種に対しては新しい育林技術が確立されるのでなければいけないはずである。さいわい一民間会社によつて、四年間も失敗の苦杯をなめつつ、遂に和歌山県下でグロブス種の造林に成功しております。

日本におけるユーカリ造林試験の中間報告その他ユーカリに関する文献を中心にして沖繩で今後造林に注意すべき事項その他を要約すると次のようなことがいえる。

(1) ユーカリ造林の際は林地の全面耕耘か、あるいは施肥を行なうことが必要である。それだけ集約的におこなつても採算上十分に有利になるだろうと思われ。

(2) 風衝地帯をさけて造林する。日本において台風による被害状況は、グロブス種六一%、ロブスター種十二%、グンニー種六%、サリグナ種三%の比率で風倒を被つてゐる。したがつて、現在とりいれられてゐるロブスター種よりも風害に強いグンニー種、サリグナ種の導入をはかるべきである。

(3) 山出し苗は在来樹種や木麻黄と同様な取扱いをやめ、すべて鉢付苗にする。鉢付苗にした方が育苗期間を短かくし、経費の節減をはかることができる。なお、鉢付苗の育苗については、現在予備実験の段階であるので後日あらためてお知らせしたい。

(4) 植栽後台風により枯死してゐるのは、風のために幹がゆり動かされることにより、根元がスリパチ状になり、支根が切断されるために枯死しているものが多いようである。したがつて、風害防止上三―四本あての群状植栽をおすすめしたい。

(5) 沖繩の気候土壌によく適した種類を導入することは最も大切である。今後導入して適当と思われる種類は、サリグナ種、グンニー種、ビミナリス種、ロストラータ種、グラデス種、クロエジアナ種、シトリオドラ種、テレテイコルス種などが最も有望と思われるので近い将来に導入研究すべきだと思われ。

日本においても沖繩でもユーカリに関してはずべて試験研究の段階にすぎないが林業試験場南明治山のユーカリ試験林は良好な結果を示しているし、また、石垣市常苗圃のユーカリ(筆者は未だ見ていないがすばらしい生長を示している由である)、国頭村奥の公有林内では、単木ではあるがよい生長をなしている。こうした結果から考へてユーカリ造林、必ずしも悲観的なるものではなく、今後の研究によつて必ず成功するものと筆者は確信している。各市町村有林、官有林、学校林や篤志家によつて試験の意味をかねたユーカリ造林が一層ひろく推進されることを切に望むものである。

(諸見里秀寧)

(三頁からつゞき)

(作り方)

- 1、もやしはよくつくろつてゆがいておきます。
- 2、胡瓜は皮をむいて繊切りにします。
- 3、肉はゆでて細かくさいておきます。
- 4、(1) (2) (3) をませ、かけ酢をして頂きます。

かけ酢

酢 大きじ二杯

醤油 茶さじ二杯

砂糖 茶さじ二杯

胡麻 大きじ二杯

注 野菜は胡瓜の代りに苦瓜、もやしの代りに春雨、ずいき、肉の代りにソーセージ、ハムを代用出来ます。胡麻の代りにピーナツ、辛などを用いると又変つた味があつて面白いと思ひます。

三、九年母の飲物

水 五カツプ

砂糖 二分の一カツプ

みかん 一〇コーニコ

(クエン酸 茶さじの半分)

- 1、みかんをよく洗ひ皮毎横に二つに切ります。
 - 2、果汁しぼり又は手でよく絞ります。
 - 3、水、砂糖、果汁をよく混ぜます。
- 注 砂糖はあらかじめ水でよくかしておきますと飲み易い。

みかんが十分に甘くなつてゐる時は少しクエン酸又は食酢をおとしますと味がよくなります。

(新垣博子)